

天然水産資源に 影響しない養殖技術

「ここ数年、天然稚魚に依存しない養殖を目指す国や企業からのアタックが多くなった」。世界で初めてクロマグロの完全養殖に成功したことで知られる近畿大学（大阪府）農学博士で水産研究所（本部・和歌山県）の村田修所長は、ワシントン条約でクロマグロの漁獲規制が強化される方向の中で、天然水産資源に影響しない卵からの完全養殖技術に

海外を含む国や企業からの技術提供依頼が増大してきたことを明かす。

5月にはアラブ首長国連邦（UAE）のアブダビ首長国の資金提供を受け、クロマグロやクエの養殖漁業発展へ人材を含む技術支援で正式合意。今後、近大が専門家を現地派遣し養殖魚類の可能性を探る実験プロジェクトの準備を始める。

さらに欧州を中心としたHACCP（危害要因分析必須管理点）など養殖工程の品質管理の徹底の視点から安全性の高い完全養殖技術に注目が集まっており、オーストラリアやモナコ、スペインといった国と地域からクロマグロの完全養殖へのリクエストがあるという。

「卵から孵化した後の初期減耗の防止と成長段階に応じた餌バランスなど、養殖に必要な稚魚にまで育てるノウハウは『朝一夕に真似できない』。村田氏は、完全養殖の難しさのポイントを披露する。その完全養殖技術のプラットフォームとなるのが稚魚生産のノウハウとコマーシャルサイズと呼ばれる30キログラムへの養殖技術の融合だ。

「稚魚からの育成は、立地や海水の温度など条件によって大きく異なる」（村田氏）というように、異なる環境で養殖するための多くの知見

が必要。そのため、クロマグロ養殖に関しては熊本県、長崎県、愛媛県などの養殖業者4〜5社に絞って、稚魚の提供を行っている。

「養殖プリで20年培った養殖技術と出荷の70%が海外輸出という商流の確かさで出資を決めた」。近大がクロマグロの稚魚を提供する養殖業者の一つである福吉魚類（熊本県）と加工会社であるブリーミー（熊本県）に、総額4800万円の投資を実行したドーガン・インベストメンツ（福岡県）の林龍平取締役は、投資のポイントを指摘する。

福吉魚類の高い養殖技術に着目して、近大が完全養殖稚魚の提供を始めたのが07年。成魚まで約3年かかるクロマグロは、第一期の養殖マグロ数百匹が『天空まぐろ』として、北米の日本食レストランを中心に出荷される。「匠の世界に近い養殖技術だが、適地があれば海外への横展開も可能」（林氏）というように、近大の人口孵化の稚魚生産から養殖・加工・流通の一气通貫のシステム構築が世界の養殖ビジネスをリードする日も近いかもしれない。